

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第41週 (10/9-10/15) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		41週	40週	39週	38週
小児科		18	17	18	18
眼科		5	4	5	5
インフルエンザ*		28	27	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数  
「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市				千葉県	
		注意報	10/9-10/15	10/2-10/8	9/25-10/1	9/18-9/24	10/2-10/8
			41週	40週	39週	38週	40週
小児科	RSウイルス感染症	○	12 0.67	11 0.65	18 1.00	20 1.11	212 1.58
	咽頭結膜熱		3 0.17	2 0.12	7 0.39	3 0.17	43 0.32
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		29 1.61	23 1.35	29 1.61	16 0.89	277 2.07
	感染性胃腸炎		54 3.00	51 3.00	42 2.33	45 2.50	356 2.66
	水痘		6 0.33	2 0.12	6 0.33	2 0.11	28 0.21
	手足口病	↓★	39 2.17	50 2.94	66 3.67	81 4.50	437 3.26
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	3 0.17	0 0.00	3 0.02
	突発性発しん		9 0.50	7 0.41	13 0.72	2 0.11	39 0.29
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.02
	ヘルパンギーナ		3 0.17	9 0.53	13 0.72	21 1.17	127 0.95
	流行性耳下腺炎		5 0.28	0 0.00	5 0.28	5 0.28	27 0.20
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1 0.04	3 0.11	4 0.14	3 0.11	37 0.17
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		3 0.60	3 0.75	3 0.60	0 0.00	21 0.62
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	5 0.56
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(2件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	80歳代	病原体遺伝子の検出	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	男性	40歳代	病原体の検出

・第41週は、結核1件(175)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(3)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第41週のコメント

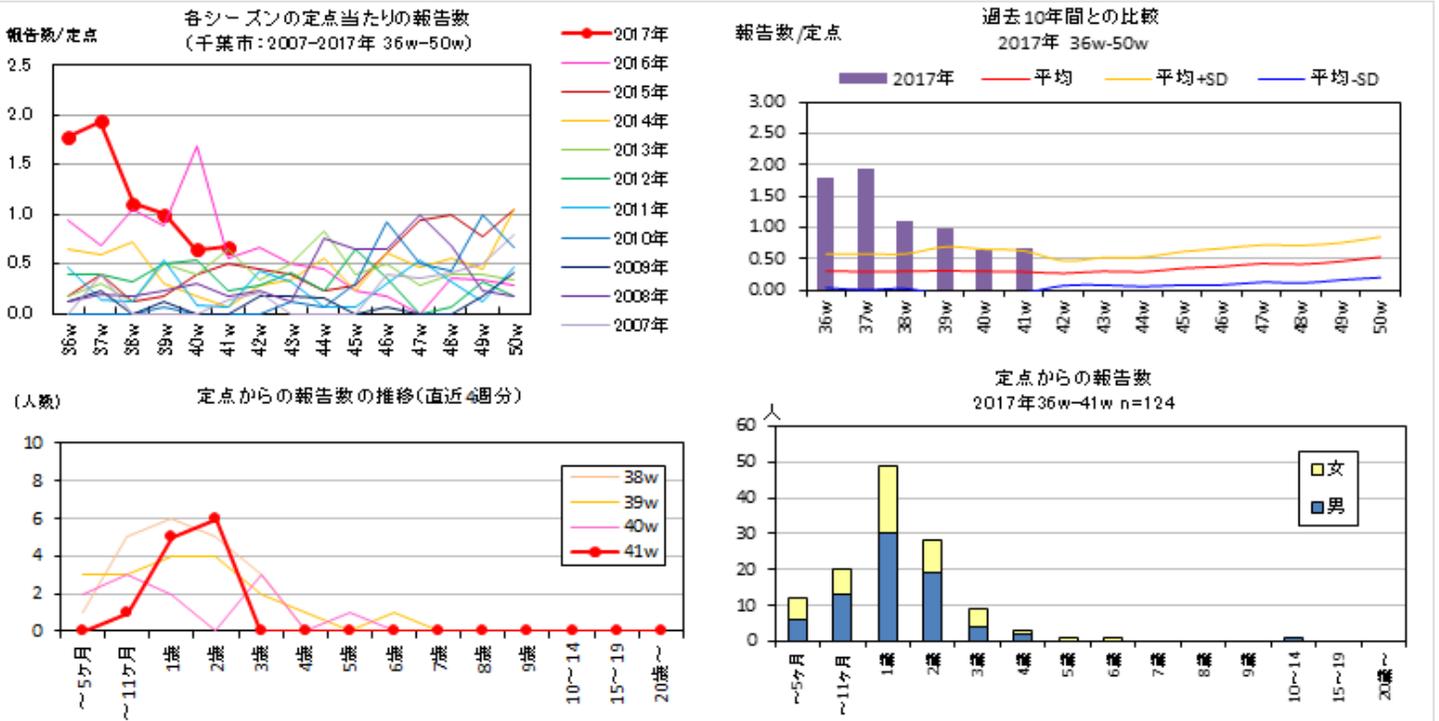
<RSウイルス感染症> 前週よりやや増加し0.67となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<手足口病> 前週より減少し2.17となったが、流行発生警報終息基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜手足口病＞

全国レベルの第40週は、前週より減少しましたが、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では茨城県、宮城県、福島県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の2017年第41週は前週より減少し2.17となりましたが、流行発生警報終息基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(4.5/定点)で流行発生警報終息基準値を上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。他に稲毛区で流行発生警報終息基準値を上回っています。2017年第1週から第41週までの累積報告数(n=1910)によると、性別では男性が54.7%(1044名)、女性が45.3%(866名)で、年齢階級別では1歳(36.2%:692名)、2歳(19.9%:381名)、6~11か月1(10.9%:208名)の順に多くなっています。



＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第40週は前週より減少しましたが過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では熊本県、徳島県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2017年第41週は前週よりやや増加し0.67となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。例年の発生動向によりますと、今後増加する傾向があります。区別の発生状況は、緑区(1.75/定点)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から第41週の報告数(n=124)によると、性別では男性が60.5%(75名)、女性が39.5%(49名)で、年齢階級別では1歳(39.5%:49名)、2歳(22.6%:28名)、6~11か月1(16.1%:20名)の順に多くなっています。

